

ゆうがく



2024 DEC.

vol.87

放送大学との長い長いご縁

安田前所長の後任として10月に山形学習センター所長に就任した山本陽史です。

多少長めの自己紹介をお許ください。

放送大学と私のご縁は長く、1988年から東京と神奈川の学習センターで面接授業を担当したのが始まりです。1995年に山形学習センターが開所しました。その時に小田隆治先生とともに初代の客員教員となりました。新設の機関ですから、横戸健一初代所長の下で事務職員、学生の皆さんといろいろと模索・工夫しながらも和気あいあいとセンターのさまざまな業務を立ち上げていった記憶が今も鮮烈です。

その後も面接授業の担当講師をたびたび務め、放送授業もラジオで1コマ持った経験があります。

2015年から2度目の客員教員となり、2020年3月、コロナ禍が始まった時期に任期を終えました。コロナ禍の期間は1回だけ面接授業を担当しましたが、その後は学習センターに来る機会もめっきり減りました。

そして、再び放送大学とのかかわりが生まれたことに不思議なご縁を感じています。

専門は日本近世文学で、江戸時代後期の江戸の大衆文学を中心に研究してきました。来年のNHK大河ドラマ「べらぼう」に描かれる世界です。また、芭蕉や『奥の細道』を中心とした俳文学、山形出身の作家藤沢周平や井上ひさしも研究対象です。近年は日本文化（「世間」と「社会」の関係／日本文化の国際化）も研究の守備範囲で「日本世間学会」代表幹事を務めています。

井上ひさしの『ポローニャ紀行』に触発され、イタリア北部のポローニャ市と山形市との交流も手掛け、ヨーロッパ最古（1088年創立）のポローニャ大学で日本や山形の文化についてのレクチャーを毎年行っています。その関係で山形市のユネスコ創造都市（ポローニャが

中核都市）の一員としての活動にもコミットしてきました。

また、趣味としてトランペットを中学時代から現在まで続けています。オーケストラや室内楽で演奏することに加え、2022年からはプロ・アマの垣根を超えた演奏家の親睦団体「日本トランペット協会」の副会長として「ラッパ」の魅力を広く発信すべく取り組んでいます。

さて、世界ではこのところ3つの大きな潮流が起きていると感じています。DX（デジタル化）、ダイバーシティ（多様性）、そしてSDGsの急速な進展です。

実は放送大学はこれらの潮流を先取りし、実践してきた機関だと思います。

多様な学生の受け入れ、放送からネットの活用、SDGsでは17の達成目標のうち特に4「質の高い教育をみんなに」の「だれもが公平に、良い教育を受けられるように、また一生に渡って学習できる機会を広めよう」を体現する存在です。

日本、そして世界が大きな課題に直面する中、放送大学の果たすべき役割はますます大きくなっています。私自身微力ではありますが、皆さんとともに向き合っていきたいと考えています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

山形学習センター所長

山本 陽史





令和6年度 第1学期学位記授与式を開催しました

令和6年9月28日(土)に山形学習センター101教室において「令和6年度第1学期学位記授与式」を開催しました。

今回、本センターからは、教養学部16名の皆さんが学位を取得されました。当日は、出席された8名の方々に、安田弘法所長から、お一人お一人に学位記が手渡されました。

放送大学では、全てのコースを修了された学生について、「放送大学名誉学生」の称号を付与する制度があり、この度、高橋邦子さんに付与されました。

また、山形学習センターでは、卒業時において特に優秀な学業成績を修められた学生について、顕彰しており、今回は、3つ目のコースを修了されました保科幸苗さんが「生涯学習奨励賞」を受賞されました。

安田所長の式辞では、卒業生に対し、卒業まで長年に渡りご努力され学位を取得されたことに、お祝いとお言葉があり、また、「卒業は新たな挑戦への出発である」「二度ない人生で教養を身に付ける重要性」「生涯学び続ける習慣の必要性」の三つについて、ご紹介がありました。

様々なご苦労や困難を克服されて、ご卒業された皆様、誠におめでとうございます。皆様の晴れやかな姿が、全科履修生の目標の一つになっています。今後とも放送大学をよろしく願います。

【教養学部】

生活と福祉コース	4名
心理と教育コース	4名
社会と産業コース	2名
人間と文化コース	4名
情報コース	1名
自然と環境コース	1名



学位記授与式を終えての集合写真



卒業体験談

「学び～視野の広がり～」

生活と福祉コース 曾根 恵子さん

放送大学への編入学は、職場の「放送大学活用研修」制度で1科目履修させていただいたことがきっかけでした。目の前の事象と理論が結びついたときの感覚は、大きな学びであり、仕事にも活かせると感じたからです。看護学校で修得した単位を申請し、大学での履修は、専門分野の科目を多く取ることにしました。

久しぶりの「勉強」は学生時代に戻ったような気持ちにさせてくれました。土日はスタバに通い集中して学び、コーヒーを片手に勉強していると何とも新鮮な気分を味わうことができました。テスト前は夜遅くまでテキストに向かい必死でした。夫も日頃はありえない私の勤勉さにかなりビックリです。

理論を学ぶことで、視野が広がりました。学ぶきっかけを与えてくださった職場に感謝しております。ここで学んだことを活かして何かしらの恩返しができればと思います。

「学び続ける意味」

心理と教育コース 阿部 駿さん

私が放送大学を入学するきっかけは間違いなく新型コロナウイルス感染症による生活様式の変化だと思う。これまで休日は遠出や外にすることが多かったがある日を境にどこにも行けなくなってしまうことは今思うと信じられない。私は今年で33歳になるが、高校を卒業して今の会社に入り早くも15年が経とうとしている。そもそも高校もスポーツ推薦で入学したので受験らしい受験を全くしてこなかった私にとって、ここまで勉学に勤しむとは以前の私からは到底想像もつかないことだ。元々一般的な心理テストが好きだったことや、近い将来会社で管理職になったら部下のメンタルケアが必要だと思ったことが心理学を学びたいという源泉になった。そんな時に偶然にも放送大学と巡り合うことができた。放送大学は学びたい者を拒まない。いつでも学びの門扉が開かれている。それは学びたい人にとってとてもありがたいことだと思う。まだまだわからないことが多く興味関心が尽きない。生きることと学ぶことは同義なのかもしれない。

「私には遊ぶと学ぶは表裏です」

社会と産業コース 保科 幸苗さん

遊ぶと学ぶは人生の表裏です。

仕事は汲々とした日々。仕事のための勉強は時間を食うばかり、眠れないしつまらない。遊ぶように学ぶことで世界を鳥のように眺めることができました。今回は3つ目の卒業、改変のため単位が消えてしまいましたが、4つ目の卒業になるはずでした。仕事も卒業、憧れのニート、もといパートタイマーとして再再再入学し遊び学び続けます。

歴史はどれも大好き、けど計算は苦手、それでも数や文字には惹かれる。ある時気づきました。私にとって学ぶとは歴史を知ることなのだと。それは「数学の歴史」を学んだ時でした。数や自然が織りなす現象を数字という崇高な文字や式で思考を表現した先人を知り、数学が大好きになりました。私の遊び学びはまだ続きます。今は世界の歴史を学ぶ術を手に入れるため英検と仏検に挑戦中です。大学院も目指してみたい。広い世界で遊び続けられるように学び続けます。

人間と文化コース 今野 美津子さん

退職が近づくにつれて、その後に何をしようかと考えあぐねていました。何か興味のあることを究める、地域の生涯学習に参加、または通信講座の資格取得等々。

何を目標にするのかと自問自答した時、丁度ヒットするかの様に、私が40年前に大学受験に失敗した事を思い出しました。当時はそれ程落胆せず、短絡的に好きな英語を学ぼうと外国語専門学校に入りました。

年齢を重ね経験を積んでいく毎に出し切れなかった努力を後悔するようになりましたが、まだ学びのピリオドは打たなくても良いことに気付きました。また自分の子供達がなんとか滞りなく大学を卒業できたのも後押し、今こそ自分の番だと思い至りました。

そこで通信教育の大学を隈なく調べ、自分が興味を持って多岐に渡って受講できる科目、且つ物理的に可能な受講方法を放送大学で探し当て入学しました。

これからはボランティア等を通じながら学んだ知識を地域に資することができたら幸いです。

「初めて頑張って勉強したかな？」

人間と文化コース 土田 清人さん

子供達が高校・大学で学んでいる姿を見て「私はこんなに頑張ったか？」と感じたこと、そして「大学卒業の学歴を得よう」と考えたことが、放送大学への入学を決めたきっかけでした。

大学に関する知識が全くなかった私は、下調べに半年を費やし、4年間かつ必要最低限の費用での卒業を目標に2020年10月に入学しました。コースを問わず魅力的な科目が多く、各学期とも選択に悩みました。また多くの方々と同様、日々の仕事と家庭での役割をこなしながらの学習でしたが、妻の励ましもあり、この秋に目標を達成することができました。

1つ心残りだったのは、非常に魅力的な面接授業が用意されていたにもかかわらず、仕事・家庭の事情から1科目しか受講できなかったことですが、この際は安田所長と一緒させていただき色々話をする機会となりました。いつの日か再入学し、面接授業も多く受講しながら学びを深めることが次の目標かなと考えているところです。

「みんなに感謝して」

情報コース 高橋 邦子さん

放送大学には大学卒業を目標として、「生活と福祉」コースに入学したのが最初です。学ぶことの楽しさを知り、次に「社会と産業」コースに、その次は「人間と文化」コースというようにして、今日に至りました。

楽しかったのは面接授業です。先生の授業を直接、目の前で聴き、表情からも学ぶことができたと感じます。今までの自分の世界を大きく広げてくれたと思います。また、「ゆうがくの会」や同窓会には残念ながら参加できませんでしたので、面接授業は同じように学ぶ皆さんに会い、話のできる貴重な機会でした。

母の介護もあり、面接授業の前後は県外に住む妹から来てもらい出席することも多々ありました。ここまで来られたのは、放送大学で学ぶことを快く承知してくれていた母や、支えてくれた家族のおかげと感謝でいっぱいです。

いろいろなコースで学んできて思うことは、様々な角度、視点から物事を見て考えることが大事だということです。学びは自分の視野を広げてくれたのではないかと思います。

これからも好奇心を持ち、新たな気持ちで学び続けていきたいと思っています。

「卒業により見えたもの(新たな挑戦)」

自然と環境コース 森谷 正仁さん

時代は二刀流。私が放送大学に入学した理由でもあり、寄稿に合わせ囲碁界の二刀流「一力 遼」君を紹介したい。彼は小学5年にして仙台を離れ、中学1年でプロとなる。結果が求められる世界にありながら、早稲田大学社会科学部を卒業、河北新報社の取締役を務めている。私も仕事のほかに町内会の役員をやりつつ、放送大学の卒業に至った。いわゆる二刀流だと思う。二兎を追う者だけが、二兎を得る。

ところで、卒業により人の本心に接し、私へのイメージを、そして自分を見つめる機会を得ることになった。私の周囲は世間という言葉を使い、高齢者の進学をコスバ・タイパ的に低く評価している。やらない理由を探す、努力しない理由を作るのは簡単である。

私も放送大学で学んだことを基に行動し、結果を得ることで卒業で見えた風景を超えていきたい。勿論、一力君は国内のタイトルのみならず、2度の世界チャンピオンという結果を出している。



令和6年度 第2学期入学者の集いを開催しました

「令和6年度第2学期入学者の集い」を令和6年10月6日(日)に山形学習センター講義室において開催しました。

初めに、山本陽史所長から、入学者の皆さんにお祝いのお言葉があり、その後、ガイダンスとして、センターの利用方法や修学上の注意事項等について、学習センターウェブサイトやシステムWAKABAの画面等を確認しながら、詳細な説明を行いました。

最後に、当センターに所属する5つのサークル(ゆうがくの会、英語講読会、国文学を読む会、パソコンクラブ、書道サークル)の代表者の皆さんから、各サークルの紹介と入会のご案内がありました。

当日は、対面で12名、オンライン(Zoom)で8名の入学者の皆さんが出席されました。





2024年度 第1学期の面接授業探訪

(この科目は2025年度第1学期も開講予定です)

『日本近代建築の歴史とその魅力』 志村直愛 先生

1日目は、山形学習センターで座学を行い、近代的な建築様式や、特有の工法について学びました。

2日目は、日本近代建築の現地見学として、「旧済生館本館、教育資料館、文翔館」を訪問しました。

実際に現地を見学することで、歴史や文化を身近に感じ、講義と関連付けて深く理解することができます。

学生からは、「ユーモアがあつて、わかりやすく面白い講義だった」「先生の講義に対する熱量がものすごく感じられた」と好評を得ています。



『アカデミックライティング基礎編』 橋爪孝夫 先生

この授業では、学問の入り口に立つ一年生を想定し、実際に資料を集め、手を動かし、レポートを書く活動を通して、基本的なレポートや論文を書くために必要な基礎となる「型」を身につけます。

講義はまず座学からスタートし、座学の内容を活用して、実際にレポートを書く手順で進み、書き方の基本を習得していきました。

授業の中では、学生同士の意見交換も積極的に行われ、自身の知識や視野を広げ探究することができる授業でした。

学生からは、「講師の方が何度もわかりやすく説明してくれたおかげで、レポートの書き方が理解できた」と好評を得ています。



2025年度 第1学期の面接授業予告

2025年度第1学期には、体験型学習など多彩な科目を開講する予定です。

『山形の郷土料理ー今昔探究』 石垣和恵 先生・藤田洋治 先生 (山形大学)

庶民の食生活と郷土料理を学びながら、調理実習を行います。

『アンデスの文化遺産と博物館』 鶴見英成 先生 (放送大学)

アンデス文明の神殿遺跡や、南米大陸の古代文明について学びます。

『メディア文化の物語構造分析』 小池隆太 先生 (米沢女子短期大学)

『ルパン三世 カリオストロの城』・『魔女の宅急便』などから、現代のメディア文化を読み解く力を鍛えます。

『はじめての認知行動療法』 河合輝久 先生 (山形大学)

自分自身の心の健康を支えることに役立てましょう。

『持続可能な地方観光は可能か?』 山田浩久 先生 (山形大学)

自然環境保護の観点から、地方観光について学びます。

すべてのお問合せ・資料請求・お申込みは

▶ インターネットでも出願や資料請求(無料)ができます! www.ouj.ac.jp

放送大学

検索

〒990-8580 山形市城南町1-1-1 霞城セントラル10階

放送大学山形学習センター

TEL 023-646-8836 FAX 023-646-8838

E-mail ymg-sc@ouj.ac.jp

<https://www.sc.ouj.ac.jp/center/yamagata/>

